県政報告 磯っ子レポート
2026年8月号《vol:194》
発行：県議会議員 新井絹世政務調査事務所
編集：新井絹世
磯子区丸山2-10-6 TEL 045-751-5250

自民党 県会議員 **あらい絹世**

次代の安全・安心へ　納得できる県の政治

インスタグラム　HP

県議会 今年度委員会構成《2》 議会運営委員会

県議会今年度委員会構成について、前号から引き続き今号では、議会運営委員会について報告いたします。議会運営委員会は15人で構成され、4人以上の会派から会派の議員数に応じて委員が選出されます。
私は5月25日の本会議で議長より、委員長を拝命致しました。
議会運営委員会は、①本会議の開会日・会期・日程案の協議。②議案や請願・陳情の取り扱い方法の協議。③一般質問・代表質問などの時間配分や順序の調整。④会議規則や先例の解釈、改正案の検討など、県議会の円滑に運営するために設置された委員会です。

県議会運営の交通整理をする 議会運営委員会

県議会の本会議は、知事から提出された議案について、議員が代表質問、一般質問などで質疑を行います。

その後、議案や請願などは、より専門的かつ詳細に審査するため、所管する委員会に付託され、審査結果が本会議に上程され、討論を経て採決が行われます。
委員会には、「総務政策」「防災警察」「文化スポーツ観光」「環境農政」「厚生」「産業労働」「建設・企業」「文教」の8つの常任委員会があり、担当する部局や行政分野ごとに、議案や請願の審査、事業に関する調査などを行います。
また、特定の県政課題を調査・審査するため、必要に応じて特別委員会が設置され、令和8年度は、「ともいき」「未来社会」「環境・産業振興」「生活・教育政策」の4つの特別委員会が設けられています。
このほか、予算及び予算関係を審議する予算委員会。一般会計、特別会計、公営企業会計の決算を審査する決算特別委員会があります。

こうした県議会の各委員会、本会議を円滑かつ公平に進めるために設けられているのが、私が委員長を務めている「議会運営委員会」です。

議会運営委員会は、本会議の日程や議事の進め方、質問時間、議案や請願の取り扱い、会議規則や委員会条例に関する事項など、議会運営全般について協議・審査します。
いわば、県議会全体の交通整理を担う委員会です。
その業務は、定例会の開会前から会期や議事日程を協議し、会期中も本会議の開会時刻や質問者や発言順序、議案の委員会付託、採決方法などの確認など、第2回定例会では11回の委員会が開会され審議しました。
また、県民の皆さまから提出された請願について議会運営委員会で諮り採択、不採択などの結論を本会議に報告することも重要な仕事です。第2回定例会では、7件の請願を審査しました。

「議会」は、主権在民や基本的人権の尊重、国会・内閣・裁判所による三権分立などとともに、民主主義を支える重要な仕組みです。国には国会が置かれ、地方自治を担う都道府県や市町村にも、それぞれ住民を代表する議会が設けられています。神奈川県議会は、県民の代表として県政の重要な方針を決定するとともに、県の仕事が適正に行われているかを監視する役割を担っています。

2023（令和5）年に地方自治法が改正され、地方議会の役割と議員の職務が法律上、より明確に示されました。
改正後の地方自治法では、地方議会は住民から選挙で信任された議員によって組織され、地方公共団体の重要な意思決定を行う機関であること、また、議員は住民の負託を受け、誠実に職務を行わなければならないことが明記されています。この改正は、議会の役割を住民に分かりやすく示すとともに、多様な人材の地方議会への参画を促す狙いがあります。私は今期の議会運営委員長として、円滑・公平な議会運営に取組んでまいります。

あらい絹世の磯子区を追憶 磯子区 あれ？これ？《4》

第2の臨海工業地帯の役割を担った 根岸湾埋め立て

磯子区では昭和30年代になると根岸湾を風光明媚な存在から、埋め立てて広大な工業地へ活用する動きが活発になりなりました。当時の行政や企業は大きな工場の設置へ、海を埋め立て広大な平地を造ることが重視され、都心に近く遠浅で地盤が良い根岸湾は適しており、重工業を集中的に配置する計画が進められました。
横浜市では、戦後復興と都市の発展へ向けて港湾機能と重工業を組み合わせた「京浜工業地帯」の役割と大規模工場の設置により、雇用の創出や市税の増収、道路・鉄道・港湾を一体的に配置する「都市計画」として位置づけました。
「根岸線建設」「根岸湾埋立」の機運が高まる中、漁業を守ろうと屏風ヶ浦漁業協同組合は根岸湾漁協、本牧漁協がともに、1956(昭和31)年9月に「反対期成同盟連合会」を結成し猛反対でしたが、漁協は「補償によって生活権を確保するか、あくまでも反対して漁業による生活権を確立するか」を問い、大乗的見地から「埋め立て反対」を取り下げて、根岸線開通（桜木町～磯子間1964（昭和39）年5月19日）と根岸湾埋立（1959(昭和34)年～1965(昭和40)年、事業費175億円）、面積234万7千㎡の工場用地に、日石、東芝、日清製油、IHI、新潟鉄工、昭和電工、東京ガス、東京電力が進出しました。

埋め立て前の中原地区 / 横浜市

埋め立てに利用した土砂は丘陵部の土地を利用し、その約73haの土地に神奈川県住宅供給公社が進出企業の社宅も含め1万6千人、4,000戸以上の中層住宅「汐見台団地」を建設し、外国の住宅地を参考にして国内初の電線類を地中埋設したモデル地区として他都市から多くの行政視察が訪れました。
根岸線は昭和45年に洋光台まで延伸され、磯子区から横浜市中心部へのアクセスも向上。工場進出と住宅の発展に伴い、昭和35年に74,458人だった磯子区の人口は、昭和50年に156,165 人と約2.1倍に増加しました。
根岸湾埋立は、磯子区を工業都市として大きく成長させ、地域の暮らしや都市基盤を形づくる礎となりました。
1965（昭和40）年、原町に「横浜市民プールセンター（通称マンモスプール）」が開設、このプールは、かつて根岸湾岸には本牧から杉田にかけて12ヶ所の海水浴場がありましたが、根岸湾埋立事業で全てが無くなり、地域住民よりプール設置の要望を受け海水浴場の代替えとして造られました。

「神奈川県庁舎 各 階」　県議会 議会局

神奈川県議会議会局は、県議会が公正かつ円滑に運営され、議員が十分な調査や審議を行えるよう、幅広い業務を担う組織で、知事部局から独立した議会の事務局として、議長、副議長及び議員の活動を支えています。
2006（平成18）年4月1日、事務局が議会の政策立案機能などを補佐する機関であることを明確に位置付けるため、事務局から議会局と改編しました。
主な仕事の一つに、本会議や常任委員会、特別委員会、議会運営委員会などの運営です。会議の日程調整、議案や請願・陳情の受理、会議資料の作成、出席者との連絡調整、議事録の作成などを行い、議会での審議が適正に進むよう支えています。また、議員から提出される条例案、意見書、決議などについても、法令や過去の事例を確認しながら必要な事務を行います。
議員の政策立案を支援することも重要な役割です。県政や国の制度に関する資料の収集・分析、他の自治体の施策調査、議員からの調査依頼への対応などを通じて、議会での質問や政策提言を支えています。さらに、議員の視察、研修、議員連盟の活動、政務活動費に関する事務なども担当しています。
このほか、県議会ホームページや広報紙、インターネット中継などを通じて、議会の活動を県民に分かりやすく発信しています。議会の傍聴案内や県民から寄せられる問い合わせへの対応、議会庁舎の管理、予算・人事・福利厚生など、組織を運営するための仕事もあります。
議会局は表立って政策を決定する組織ではありませんが、議会の審議を正確かつ着実に支える、いわば「県議会の土台」となる存在です。

昭和43年　横浜市磯子区生まれ。　明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。
　　日商岩井株式会社に８年、株式会社メタルワンに５年勤務。
平成23年　神奈川県議会議員選挙 初当選 以後連続4期トップ当選。
　　県民スポーツ常任委員会・厚生常任委員会・予算委員会など各委員長を歴任。
現　在　　議会運営委員会委員長、産業労働常任委員会委員、予算委員会委員、かながわ自民党副幹事長。